

# 令和7年度 学校評価報告書【国立市国立第六小学校】

学校教育目標	よく考える子    なかよく助け合う子    元気でたくましい子	重点目標	なかよく助け合う子
--------	----------------------------------	------	-----------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価	
					中間評価	最終評価				
よく考える子	児童の基礎的・基本的学力の定着	学ぶ楽しさを感じる子の育成	授業研究、教材研究により、「分かった」「おもしろい」「楽しい」という児童の声が聞こえる授業づくりと前学年までの復習の取組を行う。	児童へのアンケート「勉強ができるように努力している」に肯定的に回答した児童の割合 80%以上：A 70%以上：B 70%未満：C	A	A	【6月87.6 11月88.5】学年が上がるにつれて肯定的に回答する児童の割合は下がっており、高学年では80%を下回っている。前学年までの内容の定着が不十分であることが考えられる。	各学年の内容をしっかりと身に付けられるようにすることと、新たに学習することと以前に学習したことを結びつけることを意識した授業づくりを行う。	昨年度の達成状況がBだったものが、Aになったのが素晴らしい。小さな成功を積み重ねることが良い結果につながっている。	
		基礎学力の定着	朝学習の時間を中心に、東京ベーシック・ドリルを計画的に実施することで、既習事項の見直しをする。	東京ベーシック・ドリル（算数診断シート）の結果 習得の割合[平均正答率] 70%以上：A 60%以上：B 60%未満：C	B	B	【7月64% 12月61%】9月から3年生以上の少人数担当が休職となり、習熟度別学習が実施できなくなり、既習事項の定着が不十分になってしまった。	3、4年生は時間講師による習熟度別学習を実施することができている。既習事項との結びつきを丁寧に扱うようにする。	一律の課題や反復練習だけでは学習内容を習得しづらい児童もいるので、学習方法を工夫していく必要がある。	
		読書活動に対する意欲の向上	読書活動の充実を図る。（朝読書・読み聞かせ・読書旬間・おすすめの本の紹介・お話会）	児童へのアンケート「読書が好き」と回答した児童の割合 90%以上：A 70%以上：B 70%未満：C	/	B	【73%】図書室にも定期的に新刊が入り、児童の読書への興味は高い傾向がある。一方で、読書の傾向が偏っていたり、読書があまり好きでない児童がいる。	引き続き、読書旬間などの読書活動の充実を図り、読書への意欲向上のきっかけになるようにする。	ただ、読書の押し付けにならないように、読書のよさや本質をしっかりと伝えていく必要がある。	
なかよく助け合う子	特別支援教育の居心地のよい学校場・所	育特別充実援助	どの子どもも自分らしく(その子らしく)いられる環境整備	学校生活満足度調査の結果の活用により、児童理解を深め、学校・学級への安心感を高める。	児童へのアンケート「クラスは明るく楽しいですか」に肯定的な回答の割合 85%以上：A 75%以上：B 75%未満：C	A	A	【6月91.9 11月92.3】どの学年も90%近くの児童が肯定的な回答をしている。学級経営や児童同士の関係が良好であることが考えられる。	どの学年にも一定数の不安を感じている児童がいることから、その児童への対応を充実させていく必要がある。	いろいろな良さを認める経験が少なく、ちょっとしたことで相手を憎むようになってしまっているのではないかと心配である。
		学級の居心地のよい学校場・所	いじめの未然防止・早期解決	人権尊重の理念に基づき、道徳授業の充実に努め、集団の中での温かな人間関係の構築を図る。	ふれあい月間の児童への調査結果（いじめが疑われる児童への対応） 軽微ないじめの件数が減少：A 軽微ないじめの件数が同じ：B 軽微ないじめの件数が増加：C	/	A	【6月77件、11月137件】7月から11月で60件と減少している。ほとんどの案件が解消しており、引き続き早期解決を目指していく。	児童や保護者からの相談に迅速に組織的に対応できているので、引き続き、組織的な対応ができるようにしていく。	つらいことがあったときに、周りが取り除くだけでなく、自分で回避して乗り越える方法を身に付けられるようになるとうい。
		協調性や社会性の育成	構成的エンカウンターの実施により、互いの良さや成長を認め合う活動の充実を図る。	児童へのアンケート「クラスはみんなで協力している」に肯定的な回答の割合 80%以上：A 70%以上：B 70%未満：C	A	A	【6月89.9 11月90.3】6月のアンケートが肯定的な回答の割合が低かった学年も、構成的エンカウンターなどを計画的に取り入れることでその割合が高くなってきた。	構成的エンカウンターを引き続き、取り入れていくことで協調性や社会性の育成を目指していく。	表面上、うまくいっているように見えても、心の底にためてしまう児童もいるので、引き続き取り組んでいくことが重要である。	
元気でたくましい子	体育の充実	健やかな心と体の育成	体育的行事や体育の授業を通じて、心身の健康の保持増進を図る。	体力調査結果（東京都と本校の体力合計点の比較） 都の合計点を上回った：A 都の合計点と同等：B 都の合計点を下回った：C	/	C	体力調査の種目によってバラツキはあるが、すべての学年で長座体前屈は都平均を下回っており、柔軟性に特に課題がある。	体づくり運動の領域の授業の充実を図り、体をスムーズに動かせる児童を増やせるようにする。	柔軟性に課題がある点がとても気になる。けがにつながりやすいので、重点的に取り組んでほしい。	
		自己肯定感の向上	キャリアパスポートを活用し、自分の成長を実感し、自分の得意を見付け、友達の得意も認められる関係の構築を図る。	児童へのアンケート「クラスの人から認められることができる」に肯定的に回答した児童の割合 70%以上：A 60%以上：B 60%未満：C	B	B	【6月66.3 11月68.6】自分の得意なことを見付けることはできているが、友達の良さを見付け、伝えることがまだ不十分であると考えられる。	低学年の頃から友達の良さを伝える活動を様々な機会に取り入れていく。	先生の第一声がモデルになる。肯定的な言葉が多いと子供たちも周りの良さを見つめるようになっていく。	

達成状況の指標    A:100%～90%    B:89.9%～70%    C:69.9%～0%